

平成 20 年度日本海ブロック水産業関係試験研究開発推進会議研究部会報告
 海区水産業研究部会

日時：平成 20 年 11 月 21 日（金） 9 時 3 0 分～ 1 2 時

場所：クロスパルにいがた（新潟市）

参加機関：13 機関 28 名

議事	議事概要
<p>(1) 報告事項 1) 平成 19 年度検討事項について ① 今年の気象異常の影響について ② 開発した技術の普及について ③ ブロック内での砂浜海域に関する連携研究について 2) ブロック内で連携して取り組んだ研究について ① ヒラメ分科会 ② 栽培漁業資源回復等対策事業 ③ 栽培漁業日本海北・西ブロック会議魚種別分科会アカアマダイ分科会、マダラ分科会 2) 平成 20 年度水産研究実施概要及び平成 21 年度研究計画概要 (2) 協議事項 1) 平成 19 年度水産研究</p>	<p>日水研業務推進部長のあいさつの後、海区水産業研究部長を座長として議事が進められた。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○各府県の情報を収集、取りまとめて海区水産業研究部会増養殖研究会で説明が行われた。</p> <p>○日水研から平成 20 年度海区水産業研究部会増養殖研究会において、水産経済の視点でのセッションを設けて協議が行われた。</p> <p>○各府県機関からのアンケートを実施し、集計が行われたが、課題の抽出には至らず、継続して協議することとなった。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○本研究部会の前日にあたる 11 月 20 日に 21 機関 36 名の参加を受けて開催され、10 課題の発表と討議が行われたことが沿岸資源研究室長から報告された。</p> <p>○日本海北部ヒラメ、中西部ヒラメ、日本海中部マダラがそれぞれ行われていることが報告された。</p> <p>○平成 19 年度アカアマダイ分科会は 3 月 6 日に宮崎で開催され、20 年度は 3 月に京都で開催の予定であること、マダラ分科会は先週の 11 月 13 日に富山県水産研究所で開催されたことが報告された。</p> <p>○12 府県および日水研 2 部から概要の説明と質疑が行われた。</p> <p>○府県から提案された成果情報候補課題の内、以下の 7 課題について提出機関からの説明と質疑が行われた。部会における検</p>

<p>成果情報候補課題について</p>	<p>討をもとに 11 月末までに各府県で修正版の更新を行い、推進会議へ提出することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡島真野湾の磯焼け域における藻場回復技術 ・ 水中ポンプを用いたキジハタの種苗生産 ・ アカアマダイ種苗は中間育成中の照度に影響を受ける ・ 量産規模での飼育水中のワムシの栄養価に及ぼす微細藻類の添加効果 ・ アカアマダイ仔魚の成長・生残に及ぼす 24 時間照明の効果 ・ ズワイガニのメガロパ期の生残向上により、稚ガニの 1 万尾生産に成功 ・ 日本海アカガレイ漁場における餌料クモヒトデの高密度分布域形成要因
<p>3) ブロック内での研究の連携協力について</p> <p>① ブロック内での砂浜海域に関する連携研究について</p>	<p>○日水研海区部長から日本海での沿岸増養殖研究の私案説明があり、全国水産試験場長会への西部日本海ブロックからの内湾性二枚貝の資源回復のための研究要望を受けて、外部予算獲得のための研究チームの立ち上げを検討していることの趣旨説明があった。各府県からの研究課題提案を募集していることが説明された。</p>
<p>② 日本海での標識放流情報の集約について</p>	<p>○日水研から趣旨説明と標識放流情報の集約の提案があり、各府県で持ち帰り、11 月末日までに意見提出をすることとなった。なお、資源部会には別途日水研資源部から意見照会を行うことが説明された。</p>
<p>4. その他</p>	<p>○日本海ブロックにおける日水研と府県試験研究機関との役割分担について、各府県機関の意見提出を日水研から依頼し、11 月末日までに意見提出することとなった。</p>
<p>閉会</p>	